

成田の夜 震災復興願う光

色鮮やかなイルミネーションが年末のこの時期、成田市内を彩っている。電気工事業を営む市内の山崎治さん(45)が東日本大震災からの復興を願って私費を投じて始め今年で5年になる。規模は年々大きくなり、今年は市内5カ所で街行く人の目を楽しませている。

市内の山崎さん 私費で始め5年

航空ファンが集まる「さくら」の山公園(成田市駒井野)では、木々や地面が電飾で覆われ、市の観光キャラクター「うなりくん」をかたどったものが青色に輝く。使っているLED電球は10万個だ。その他、京成公津の杜駅前、三里塚記念公園、はなのき台、ポンベルタ横バスロータリー(同市赤坂)にも電飾があり、5カ所全体で電球は計20万個にのぼるといふ。

東日本大震災の翌年、2012年の冬に山崎さんを中心にして元々の経営者仲間4人で開始。震災で落ち込んでいる雰囲気やイルミネーションで明るくしたい、との思いがあったという。まずは、さくらの山公園で、平面のうなりくん飾りを作った。液状化被害が深刻だった浦安市で、山崎さんが電柱の撤去・新設などの復興作業をした際に出た電線や鉄パイプ、金網などの廃材を活用。廃品リサイクル業を営む仲間に廃材を



成田市の5カ所でイルミネーションを行っている山崎治さん(中央)。発起人で地元経営者仲間の伊藤隆治さん(左)と菊地貴さん(右) 京成公津の杜駅前

「規模、毎年大きくしたい」

買い取ってもらい、その資金で電球などを買ったといふ。

「多くの人が集まり、子どもたちが喜ぶ姿がうれしい」と山崎さん。翌年は公津の杜駅前を追加。年を追うごとに規模を大きくしてきた。ゆるキャラも3年目から立体的になり、大きいものは高さ3メートル以上。県マスコットキャラクター「チーバくん」や周辺市町のゆるキャラもあり、山崎さんが会社の従業員の協力を得て、仕事の合間などに作ってきた。

これまでに、かかった費用は数千円。ほとんど山崎さんが私費を投じてきたが、今年から地元の大規模商業施設や、建設会社のスポンサーがついた。ただ、市からの補助金はないという。

山崎さんは、岩手県陸前高田市に義援金を届けたり、水害のあった茨城県常総市にボランティアに行ったりもしている。

さくらの山公園では今月26日、JR君津駅前に貸し出し中の電飾「チーバくん」など計11体の電飾ゆるキャラが集まる、催しがある。同所のイルミネーションは2月末まで。その他の4カ所は1月末まで楽しめる。山崎さんは「資金が続く限り、規模を毎年、大きくしていきたい」と夢を語っている。(大津正一)